

JAEF REPORT

平成27年7月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 第4回評議員会・第10回理事会を開催
- ◆ 平成27年度事業計画説明会を開催
- ◆ 平成27年度JAEF研修会の参加者を募集

- ◆ 37都道府県の研修会(131件)に講師を派遣
- ◆ 平成27度自動車技術教育用教材提供へ101校から応募

第4回評議員会・第10回理事会を開催

……6月10日

財団運営

5月25日に第9回理事会が芝パークホテルにて開催され、平成26年度事業報告・決算及び第4回定時評議員会の開催内容等が承認された。それを受け、6月10日に第4回定時評議員会が経団連会館で開催され、平成26年度事業報告・決算及び評議員の一部選任並びに改選期に伴う理事・監事の選任が承認された。また、同評議員会終了後に第10回理事会が開催され、代表理事及び業務執行理事等が改めて選定された。

財団は平成26年度事業報告において、「社会と自動車のより良い関係を形成するため、高等学校における自動車及び交通に関する教育の支援事業を行った」としている。その主な内容は、「①自動車技術教育については、高等学校における技術教育の維持・向上と更なる普及に取り組んだ。自動車技術教育用教材の継続提供に対する高等学校からの強い要望に応えるため、広域公募を継続すると共に提供教材メニューの充実を図った。また、担当教諭の技術知識や指導能力向上を目的とした支援活動にも取り組み、指導員の派遣や指導教材の提供を適宜実施した。②交通社会教育では、引き続き「交通」「環境」「交通安全」「自動車」の4テーマを中心に取り組んだ。これらに関する国内外の先進事例の調査を重ねて調査報告書や広報誌の特集記事にまとめたり、社会科授業向けの新副教材を開発するなどして、教育関係者へ広く提供した。また、先生方の関心が高い環境や安全に関する先進技術や交通安全等については、先生方を対象とした財団主催研修会の開催や、関係団体からの専門講師の学校派遣を増やすなどして、高等学校における自動車や交通に関する教育を支援した」としている。

また、平成26年度決算においては、事業規模は維持しつつも運営の効率化と適正な費用管理に努め、当初計画通り若干の黒字になったことが報告された。

評議員の一部選任に関しては、6名の評議員(木村寛治氏、五十嵐善一郎氏、新地秀一氏、山本芳春氏、江頭敏明氏、児玉正之氏)が退任され、その後任に6名の評議員(小栗洋氏、小山公央氏、中島哲氏、峯川尚氏、宮本晃雄氏、大川畑文昭氏)が選任された。



▲第4回定時評議員会の様子



▲定時評議員会後の懇親会の様子

また、理事・監事の選任に関しては、11名の理事と3名の監事が選任された。新任の理事は3名(平井敏文氏、木場宣行氏、深田一政氏)、新任の監事は1名(山崎幸雄氏)で、他の8名の理事及び2名の監事は再任である。また、小枝至氏が理事長に、張富士夫氏が副理事長に選定され、両名を中心に財団は新たなスタートを切ることになった。なお、平成26年度の事業報告の概要及び理事・監事・評議員の新名簿は、添付別紙をご参照ください。

INFORMATION

7~9月予定

- 審査委員会開催、平成27年度教材提供校を決定 8月初旬
- 第98回~99回JAEF研修会を開催 7月~8月
- 22都道府県の研修会(39件)に講師を派遣予定 7月~9月
- 自動車技術教育イベントを支援 8月

平成27年度事業計画説明会を開催

…6月11日

普及啓発

財団は、6月11日、平成27年度事業計画説明会（主に自動車・損保・教育関係専門紙などのマスコミ対象）を日本自動車会館くるまプラザにおいて開催し、約20名の参加者を得た。

財団より、平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画を説明した後、意見交換を行った。参加者からは、整備士不足に対する財団としての取り組みなど、業界における人材確保問題に関する質問や意見が寄せられ、有意義な会合となった。



▲事業計画説明会の様子

平成27年度JAEF研修会の参加者を募集

…6月～

研修

財団は、平成27年度JAEF研修会の募集について、全国の高等学校約5,800校および過去2年間のJAEF研修会参加者約260名へ案内した。本年度は、下表の通り首都圏、中部圏、近畿圏にて年間4回（夏季休暇期間中の7月・8月に各1回、11月に2回）開催する。

JAEF研修会は、「交通」「環境」「交通安全」などをテーマとして、全国の高校教諭を対象に実施する財団主催の研修会である。平成3年のスタート以来、関係団体・企業のご協力により、各界の専門家による

講演会と施設見学や体験実習などをセットにして行い、参加された先生方から高い評価を得ている。その結果、昨年度までの先生方の参加者累計は約3,620名を数えている。また同研修会は、今年度も文部科学省、開催都県の教育委員会および全国高等学校長協会、全国工業高等学校長協会、全国総合学科高等学校長協会、日本私立中学高等学校連合会、全国公民科・社会科教育研究会の後援・協賛を得ており、財団は全国の高等学校の先生方に積極的な参加を呼びかけている。



▲第94回JAEF研修会・交通安全体験（H26年度）



▲第95回JAEF研修会・安全運転訓練（H26年度）

【平成27年度JAEF研修会開催計画】

実施回	月日と会場	講演テーマ・見学施設・実習体験	募集人数
第98回	7月28日(火) 兵庫県明石市 川崎重工業 明石工場	(講演) 安定した車体挙動を実現する二輪車技術 (Ninja H2/H2R) の紹介 (見学) モーターサイクル組立工場とモーターサイクル歴史車	40名
第99回	8月28日(金) 静岡県駿東郡 トヨタ交通安全センター モビリティ	(講演) ドライバー自身ができる安全対策 (実習) 安全運転トレーニング	30名
第100回	11月2日(月) 東京都江東区 有明ワシントンホテル、東京ビッグサイト	(講演) 自動運転車 開発の現状と将来展望 (見学) 第44回東京モーターショー	150名
第101回	11月20日(金) 東京都羽村市 日野自動車 羽村工場	(講演) 大型自動車の安全技術・省燃費 (見学) 小型トラック組立ライン・FJクルーザー生産ライン (実習) 大型バスのPCS(衝突被害軽減ブレーキ)体験試乗	40名

37都道府県の研修会(131件)に講師を派遣

・・・4月～6月

研修

財団は、自動車の整備技術やハイブリッド技術などの「自動車技術」に関する研修メニュー（8種類）および「環境」「交通」「交通安全」に関する一般研修メニュー（7種類）を用意し、高等学校や教育委員会からの要請を受け、専門の講師を派遣している。今年度4月～6月は、37都道府県（131件）の研修会に専門の講師を派遣した（別表参照）。これらの研修会の受講者累計は、50,865名に上った。

131件の内訳は、一般研修会の「交通安全」に関する講師派遣の要請が127件（「危険予知による交通安全」59件、「自転車と歩行者等を中心とする夜間の交通安全対策」26件、「自転車と交通安全」20件、「クルマ・自転車・人がつくる道路交通と安全」15件、「交通事故とその責任」7件）、技術研修会は4件

（「ホンダ・ハイブリッド車について」、「マツダ・SKYACTIVエンジンの構造・作動について」、「日産・電気自動車について」その他「モータースポーツの社会的意義」）であった。「交通安全」に関する講師は、日本自動車連盟支部および日本損害保険協会支部にご協力いただいた。また、技術研修会の講師は、ホンダカーズ広島、北関東マツダ、日産プリンス福岡販売および三菱総合研究所にご協力をいただいた。

いずれの研修会の参加者からも大変高い評価をいただくことができた。

ご協力をいただいた関係団体・企業ならびに各県の推進協議会の皆様には、紙面をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

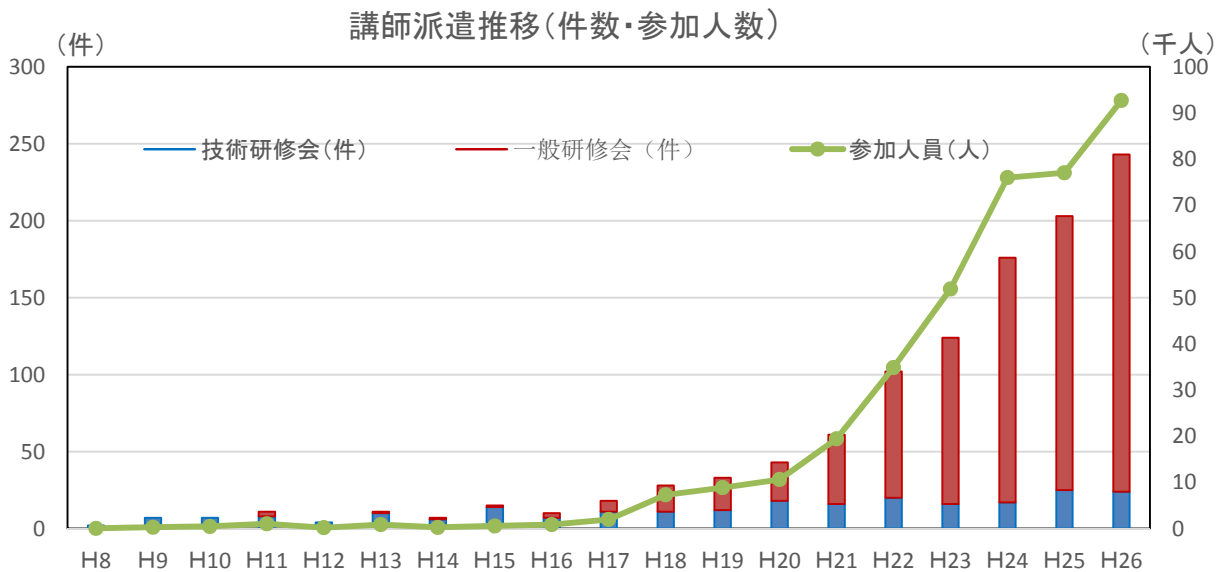


▲栃木県高等学校教育研究会の技術講師派遣研修会



▲青森県立大湊高等学校での交通安全研修会

【講師派遣実績(平成8年度～平成26年度)】



	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
技術研修会(件)	2	7	7	8	4	10	6	14	7	11	11	12	18	16	20	16	17	25	24
一般研修会(件)	0	0	0	3	0	1	1	1	3	7	17	21	25	45	82	108	159	178	219
研修会合計(件)	2	7	7	11	4	11	7	15	10	18	28	33	43	61	102	124	176	203	243
参加人員(人)	41	289	460	1,030	200	850	241	568	861	1,970	7,298	8,868	10,636	19,429	34,875	51,897	76,002	77,058	92,725

財団は、技術教育支援事業の一環として、今年度対象15府県（下記参照）で自動車技術教育を実施している307校へ6月初めに応募要項を送付した。締切の6月30日までに101校から応募があり、応募率は32.9%であった。最終的な提供校および支援内容は、8月7日に開催する審査委員会（小山実委員長）で、厳正な審査・選考により決定する予定である。

＜応募状況＞

今年度の応募校数は101校で、同地域で募集した3年前の93校を8校上回った。応募回数では以前に提供したことのある学校からの応募が95校に対して、初めての応募が6校（5.9%）であった（昨年7.0%・一昨年19.8%）。今回も再応募が高く、一度活用していただいた高校で教材提供活動が広く認知されだしていると推測される。教材別では初級教材（53.5%）、上級教材（21.8%）視聴覚教材（20.8%）、中級教材（3.9%）となった。

＜教材別応募状況＞

各学校は、教材提供メニューの中から第3希望まで選定して応募することとなっているが、第1希望の応募状況を見ると、分解組立用汎用エンジンが昨年同様1位で20校と19.8%を占める人気教材であった。2位は前年同様実習用工具セット（10校）だが、同じく2位に外部故障診断機（スキャンツール）が入った。4位は視聴覚教材（自動車の基礎電気）9校、5位はエンジン実習装置8校であった。なお、本年度も自動車技術教育の維持・向上を図るべく、学校の希望も踏まえながら前年からメニューの追加を行い29メニューとし、視聴覚教材から上級教育用教材まで広く提供メニューを用意し対象校へ案内を行った。

学習区分	教材番号	教材名	提供数量
視聴覚教材	1	自動車の基礎・電気	1セット（DVD10枚組）
	2	自動車機械・基礎	1セット（CD3枚組）
	3	エンジンの作動原理	1セット（CD4枚組）
	4	駆動・制動装置	1セット（CD3枚組）
	5	動力伝達装置	1セット（CD2枚組）
	6	走行装置とかじ取り装置	1セット（CD5枚組）
	7	ディーゼルエンジン燃料装置	1セット（CD3枚組）
	8	自動車の電気・電子技術	1セット（CD3枚組）
	9	自動車の新技術	1セット（CD3枚組）
	10	eTOOLBOXハイブリッド自動車編	1セット（CD3枚組）
	11	動く掛図教材（4サイクル・2サイクル）	1セット（2種類）
初級教材	12	分解組立用エンジン（汎用・126cc）	4台
	13	分解組立用キャブレターエンジン	2台
	14	分解組立用電子制御エンジン（軽自動車）	4台
	15	分解組立用電子制御エンジン（小型車）	4台
	16	実習用工具セット	4セット
	17	実習用工具トルクレンチ	4個
	18	急速充電器	1台
	19	低床型手動ジャッキ足踏付 2t	1台
	20	エンジンスタンド（簡易型）	4台
中級教材	21	エンジンテスターセット	1セット
	22	トランスミッション	2台
	23	電子ブロック実験装置	1セット
	24	燃料電池実験キット	1セット
	25	ビデオスコープ	1台
	26	電装品（灯火器）シュミレータボード	1セット
上級教材	27	実車（中古車）	1台
	28	エンジン実習装置	1台
	29	外部故障診断機（スキャンツール）	1台

*教材No26は、新規追加メニュー。

【平成27年度公募対象地域と応募校数】

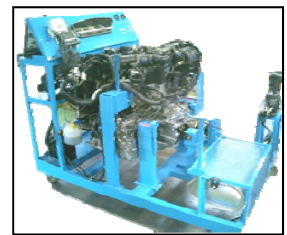
青森県(11) 岩手県(2) 宮城県(13) 福島県(9)
 茨城県(7) 静岡県(6) 岐阜県(4) 愛知県(10)
 三重県(7) 滋賀県(3) 京都府(2) 大阪府(12)
 兵庫県(10) 奈良県(3) 和歌山県(2)

()内の数字は県別の応募校数

計15府県 101校

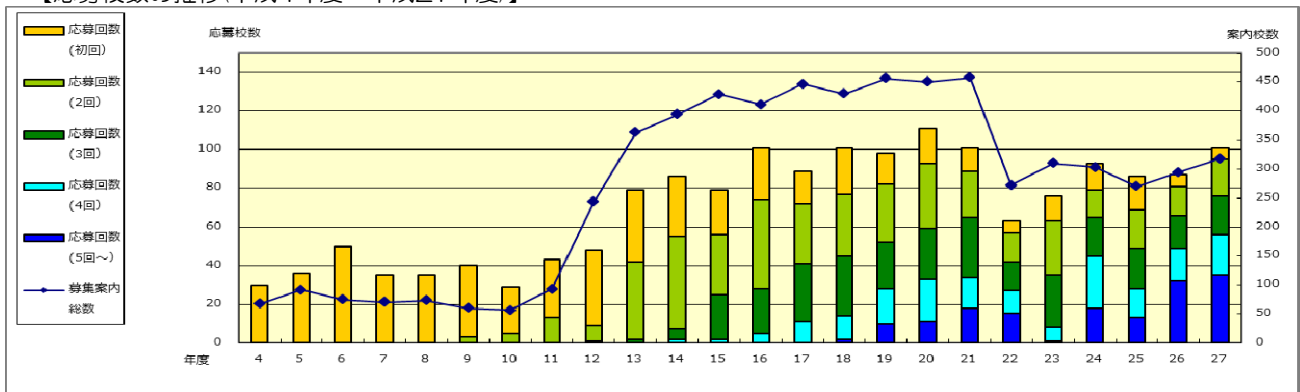


▲分解組立用エンジン



▲エンジン実習装置

【応募校数の推移(平成4年度～平成27年度)】



※平成23年度応募校数には平成22年度公募予定だった宮崎県の5校が含まれる